

マル経融資で高い実績残す

神奈川県足柄上商工会

「お客さんの『ありがとう』の一言を聞いたたび、つくづく指導員になってよかったです」と。

マル経融資（小企業等経営改善資金融資）の推進で高い実績を残している神奈川県足柄上商工会の主任経営指導員の高橋信男さんは、融資を斡旋した会員企業経営者の感謝の言葉に素直に喜ぶ。

足柄上商工会のマル経融資の推薦実績は平成十五年度が一二八件、指導員一人当たりの実績は四二・七件と非常に高い。その理由については、「創設当時から商工会の伝統で、マル経融資には力を入れて取り組んできました。先輩の指導員が基礎を築いてくれたから、これだけ広がりを見せているのだと思います」と高橋さんは話す。ちなみに、全国の商工会の指導員一人当たりの平均は六七件だ。指導員一人当たりの推薦件数では、全国平均で六倍もの実績を誇っている。

足柄上商工会は、昭和三十六年に五つの町をカバーする商工会としてスタート。その後、昭和四十二年に南足柄町が分離したため、松田町、開成町、大井町、中井町の四つの町が一つとなった商工会として再スタートを切った。会員数は約一二〇〇社で、三人の指導員でカバーしている。各町には支部を設け、きめ細か

な指導体制を敷いている。

会員は建設関連企業や小売業、飲食業、サービス業などが多い。「公共事業が減少する中で、建設関連企業の衰退が顕著で、その影響で飲食業や小売業、サービス業なども苦戦を強いられている」（高橋さん）ようだ。そのため、会員企業の資金繰りは厳しい状況が続いている。

借り換え需要が全体の六割

商工会地域には地方銀行、信用金庫があるが、四つあった信用金庫は倒産や合併で一つになった。小規模企業にとつて、頼りになる信用金庫が一つしかないうえ、民間金融機関は依然、貸出姿勢に慎重であることから、マル経融資のニーズは非常に高い。

同商工会のマル経融資の推薦実績は、十三年度が一二三件、十四年度が八三件、十五年度が一二八件と一年おきに高い実績を示している。十五年年度でみると、全体の六割を借り換え需要が占めている。融資の半分まで返済した段階で借り換えができるため、借り換え需要が増加している。一年おきに扱い実績が高いのは、「ちょうど、借り換え時期に当たったためだ」（高橋さん）。十六年度は借り換え需要が少ないため、十二月末現

在で六九件と少なめだ。使途別で見ると、八割を運転資金で占める。

マル経融資は小規模企業などに対して、経営改善に必要な資金を無担保・無保証で融資する国の制度。商工会の経営指導員の経営指導を六ヵ月以上受けている経営者が対象で、最大一〇〇万円まで国民生活金融公庫（以下、国金）から融資が受けられる。資金は仕入れや給与・ボーナスなどの運転資金、工場・店舗改

マル経の融資条件

経営指導	商工会経営指導員による経営指導を6ヵ月以上受けている方
居住	1年以上同一地区で事業をしている方
資金使途	(1) 運転資金（仕入資金、買掛代金支払など） (2) 設備資金（店舗改装、機械や設備の購入代金など）
融資額	550万円（別枠450万円）
担保・保証人	不要
融資利率	年1.25%（平成16年12月10日現在）

装、機械・車両・設備などの購入時の設備資金として利用できる。金利は十六年十二月時点で年一・二五%。

足柄上商工会では資金繰りに困っている会員に、無担保、無保証で民間金融機関に比べ金利の低いマル経融資の利用を勧めるため、会員向けに年数回発行している小冊子でマル経融資を積極的にPR。同時に、指導員が会員企業を訪問した際に、常にマル経融資のメリットなどを説明するなど、マル経融資のPRに努めている。また、夏と冬の資金需要期には国金の担当者が商工会に出向き、マル経融資を含めた資金繰り相談を開いている。「マル経融資を知らない会員企業が多い」（高橋さん）ため、機会があるたびにマル経融資のメリットを説明している。商工会と融資先である国金の地道な努力が、マル経融資の斡旋件数の拡大につながっていることは間違いない。

融資の仕組みは商工会の経営指導を受け、経営改善資金を必要とする小規模企業者を商工会が推薦し、審査を得たうえ、無担保・無保証で国金の融資が受けられる。足柄上商工会では、融資相談を受けた段階で、融資先の国金に照会して、取引条件の調査をもらうなど、国金とは緊密な連携を取り合っている。「受け付けた段階で、融資ができないとな

ると、資金繰りの計画が狂い、お客さんに迷惑をかけるといけないから」（高橋さん）だ。

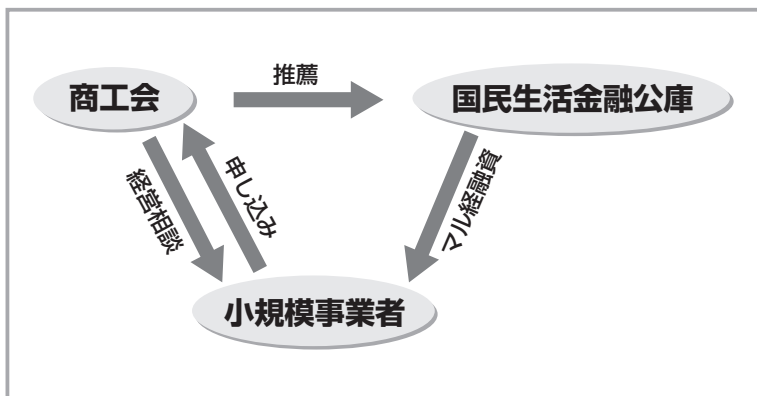
国金との緊密な連携は、事故率の低下にもつながっている。足柄上商工会の延滞などの事故率は二・九%で、全国平均の四・〇五%に比べて低い。

マル経融資への意識高い会員

マル経融資がスタートした昭和四十八年ごろは、融資斡旋件数が商工会に割り当てられていたが、足柄上商工会では「いつも割り当て件数をオーバーしており、不足分を他の商工会から借りてきた」（高橋さん）ほど、マル経融資には力を入れて取り組んできた。そのため、マル経融資に関して会員企業の意識が高いことも、融資件数が多い要因となっているようだ。

マル経融資で斡旋した企業の経営者に喜ばれることも多い。ある機械工具会社は、共同で仕事をしていたメーカーが海外企業と提携したため仕事量が減少し、運転資金に困り、高橋さんに相談にきた。特殊な技術を持っていたが、経営者の年齢が八〇歳と高いうえ、後継者もいないため、銀行からの借り入れができず、運転資金に困っていた。国金に事前

マル経融資の仕組み



に相談し、なんとか五五〇万円のマル経融資を受けることができた。「資金が振り込まれとすぐに、『会社をつぶさずにすみました。本当にありがたいございました』と、お礼の電話をいただいたときは、マル経融資を勧めてよかったと思いました」と嬉しそうに話す。

その一方で、苦い経験もある。地元で長く営業していた飲食店が資金繰りに困って相談を受け、マル経融資の斡旋をした。「決算内容は悪かったが、地元で長い間商売をしていた

ことからマル経融資を勧め、融資を受けることができたが、半年で返済が滞るようになってしまった」と、高橋さんは複雑な胸のうちのちを語る。

「会員企業が苦勞しているのは、資金繰りと記帳です。会員企業の資金繰りを支援することは、商工会の基本的な仕事です。そういう意味で、マル経融資を通じて、お客さんの資金繰りをお手伝いすることは、指導員にとって大事なことです」。高橋さんは、商工会の基本的な役割について語る。

マル経融資を受けたあとの企業のフォローにも力を入れている。「融資を受けても、なかなか軌道に乗れない企業もあり、それらの企業を支援するため、なるべく融資を受けた企業を回り、経営改善指導をしている」（高橋さん）という。

ただ、マル経融資は飲食店と理・美容業の設備資金には活用できないなどの問題がある。「理・美容業で設備資金としてマル経融資を使いたいという会員企業も多く、ぜひこれらの企業でも利用できるよう規制を緩和してほしい」と高橋さんは制度の改善を訴える。さらに使い勝手のよい制度にすることで、倒産を免れる小規模企業はたくさんあるはずだ。現場で直接指導にあたる高橋さんの言葉が重く響く。